



## おかしいぞ、ニッポン

花の村代表

池守 幸一

パソコンを覗く機会があれば、一度農水省のホームページ(輸出戦略)を御覧いただきたい。「攻めの農業」をうたう役所なので、輸出相手国の事情を掲載しています。特に御覧いただきたいのは各国の農薬の残留基準。日本の残留基準のほとんどない大甘ぶり、後進国ぶりに驚かされます。あきれて言葉もないほど。

特に厳しいのはEUだ。日本の基準はEUの何百倍も緩い。お茶だと有機リン系のアクテリック乳剤というのは日本10PPM、EU<sup>0.05</sup>PPM<sup>2</sup>千倍緩い。お茶だけでなく、みんなこんな具合で、輸出のすすめどころか輸出はあきらめろといってる風。

ちよつとまってよ。それじゃわれらが日本人っ

学園花の村機関紙第94号

2016年12月3日(土)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

〒 436-0079

〒三十三 1065

てそんなに酷いお茶を飲まされているって事なの。おいしくて安全な日本の農産物って話は、あれはデタラメ、嘘っぱちだってことなの。4年後の東京オリンピックの時にこの話が拡がったらパニックじゃん。

それを見越して農水省オーガニック農産物調査事務局という役所から全国の有機生産者に向けて、東京オリンピックの時に出荷できますか、という問い合わせがされています(ウチにはこなかった)。そんな姑息なコトしてるヒマがあったら、農薬業界と農水省の癒着をやめて、日本の基準を改善しろっていうの。おかしいぞ、ニッポン。

この地球という星に誕生した人類は、以来これは食べられるか、食べられないかを命を懸けて識別してきました。人類の歴史は何万年にも及ぶ、その経験の伝承の歴史でもあります。他方、農薬や食品添加物、遺伝子組み換え食品、原子力などは、たかだか50年か100年のものだけありませ

ん。考え方には保守的だとか革新的だとかいろいろ

るありますが、こと食べ物に関してだけは偉大な人類の集積である保守を貫きたい。未知のものは口に入れないという頑なな態度です。これは自分と家族を守るイロハのイの字であります。

EU諸国などの残留基準は、多分こういう考え・文化に立っているのではないか。

命をつなぐ大事な食べ物まで、つい経済だ効率だを基準にしてしまう、我がニッポン、おかし



ピワ